

ネットコンファレンスの日時、場所、出席者、説明者他：

日時	2020年11月11日 16:30～17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IRグループリーダー 小池 太郎
説明資料	2020年度第2四半期決算の概要 及び 2020年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの20年1Q（4-6月）から20年2Q（7-9月）にかけて増益となった内容について説明して欲しい。また、20年下期に向けての動向について前回予想との比較も含め説明して欲しい。

A1. 20年1Qから2Qにかけてはコロナ影響緩和により主にPPコンパウンドでの増販により増益となりました。下期にかけても販売の回復を見込んでいます。自動車用途における製品については、前回公表値からは前回並み若しくは微増で見込んでいます。一方、展示会の中止等によりArrk社の受注減や、原料上昇に伴う交易条件の悪化により、前回公表値から下方修正となりました。

Q2. PPコンパウンドの20年1Q（4-6月）から20年2Q（7-9月）にかけて、また20年下期にかけての動向につき、地域毎に説明して欲しい。

A2. 1Qでは対前年同期比▲60%程度と大きく減販となりましたが、上期累計では対前年同期比と比べ▲30%代半ば程度の減販となり1Qからは回復しています。1Qから2Qにかけては北米、中国、ASEANを中心に大きく増販となりました。下期は全般的には対前年微減まで回復する見込みですが、ASEANについては少し回復が遅れるとみています。

Q3. モビリティのICT分野における20年1Q（4-6月）から20年2Q（7-9月）にかけての動向、及び20年上期から20年下期にかけての動向につき説明して欲しい。

A3. 1Qから2Qにかけて販売は堅調に推移しました。上期から下期にかけても同様に堅調に推移すると見込んでいます。

Q4. EUVベリクルの完工スケジュールは遅れているが、営業運転開始への影響はないのか。

A4. 現時点で営業運転開始への影響はございません。

■ヘルスケアセグメント

Q5. 20年1Q（4-6月）から20年2Q（7-9月）にかけて増益となった内容、及び19年2Q（7-9月）対比でも増益となった理由について説明して欲しい。また、20年下期に向けての動向についても説明して欲しい。

A5. ビジョンケア、歯科材料の販売の早期回復及び不織布の増販により増益となりました。19年2Q対比では不織布が大幅に改善しており増益となりました。下期は、不織布についてはコロナによるマスク需要等が一服し需要減少となりますが、ビジョンケア、歯科材料での拡販により増益を見込んでいます。

Q6. コロナ影響によるマスク需要や医療用ガウンはどの位利益貢献しているのか。

A6. 20年上期の利益の半分にはいかないまでも、不織布の増販、増益に貢献しています。

Q7. ヘルスケアの上方修正について説明してほしい。

A7. 主にはビジョンケア及び歯科材料におきまして想定を上回る速度で回復したことにより増益となりました。

Q8. ヘルスケアは20年上期かなりのコスト削減となっているが、20年下期のコスト削減状況はどうか。また、コスト削減の内容についても説明して欲しい。

A8. コロナからの回復状況により、事業活動再開に伴い上期から下期へコストは増加する見込みです。上期は主に海外子会社での時短勤務、政府補助金によりコストが減少しました。

■フード&パッケージングセグメント

Q9. フード&パッケージングセグメントの20年1Q（4-6月）から20年2Q（7-9月）にかけて減収増益となった背景について説明して欲しい。また、20年下期にかけての動向について原料価格の上昇の影響、農薬の販売の見込みも含め説明して欲しい。

A9. 限界利益率の高い農薬販売が海外需要期で堅調に推移しましたが、フィルム・シートは包装フィルム、産業用フィルムのイクロスは1Q 特需からの反動により減販となりました。下期は、農薬の国内需要期による増販はございますが、原料価格上昇による交易条件の悪化及び固定費の増加により上期からは減益を見込んでいます。フィルム・シートの販売状況は、イクロスは下期も販売は堅調を見込んでいますが、包装フィルムは減販となり全体では上期並みを見込んでいます。農薬は、下期国内需要期となり堅調な販売を見込んでいます。

Q10. フード&パッケージングの上方修正について説明してほしい。

A10. 農薬の販売増加に加え、各事業のコストダウンを織込み増益となりました。

■基盤素材セグメント

Q11. 基盤素材の20年1Q（4-6月）から20年2Q（7-9月）にかけての損益改善、及び20年上期から20年下期への損益改善につき要因別に説明して欲しい。

A11. 1Q から2Q にかけては、修繕費等の固定費増加により約▲30億円、原燃料価格上昇による比例費の増加により約▲20億円のコスト増加の影響はございますが、コロナ影響緩和による増販により約20億円、在庫評価損及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響の解消により約100億円、持分法投資損益においても約10億円改善いたしまして、あわせて80億円の増益となりました。

下期にかけましては、PH 市況下落により約▲50億円、修繕費の増加や原燃料価格上昇による比例費の増加により約▲50億円の影響はございますが、増販により約70億円、在庫評価損及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響の解消により約90億円改善いたしまして、あわせて約60億円程度の改善を見込んでいます。

Q12. 基盤素材の上方修正について説明してほしい。

A12. 自動車生産回復に伴うポリプロピレンでの増販、ナフサ価格上昇に伴う在庫評価損及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響が減少、及び持分法投資損益の改善により増益となりました。

Q13. 基盤素材における20年上期実績及び20年下期の見通しの、クラッカー及びポリオレフィンの稼働率について教えて欲しい。

A13. クラッカーの20年1Q（4-6月）は低稼働で推移しましたが、20年2Qは90%程度まで回復、20年下期はフル稼働を見込んでいます。ポリオレフィンについても1Qは低稼働で推移しましたが、2Qは90%程度まで回復、下期はフル稼働を見込んでいます。

Q14. 20年下期のクラッカー及びポリオレフィンが高稼働になるにもかかわらず基盤素材の利益水準が低いのは何故か。

A14. 下期はPH系の製品の市況が下落することによる影響を見込んでいます。

Q15. 20年下期の基盤素材の主要製品での市況についての前提はどうなっているか。

A15. オレフィンについては、新プラントの稼働、各社定修明け等によりC2は下落、C4については需要回復に伴い上昇を見込んでいます。フェノールについては、3Qは需要が横ばいで推移する中、アジアでの定修に伴い2Qから市況はやや改善、4Qは新プラントの稼働、定修からの立ち上がりにより供給量は増加し、市況は下落を見込んでいます。ACは、上期はコロナ影響によるIPA向け特需及び欧米での定修により供給はタイト化しスプレッドは高水準で推移しました。下期は、IPA向けの特需沈静化、及び新プラント稼働による供給増となり、スプレッドは徐々に下落すると見込んで

います。BPA は、2Q は新プラント稼働遅延により、市況は高水準で推移しました。下期以降は、新プラント稼働による供給量の増加により市況は下落を見込んでいます。TDI は、2Q で海外のプラントでトラブルにより需給がタイト化し 8 月下旬以降市況は上昇しました。3Q は引続き定修要因もあり市況は 2Q 並みに推移すると見込んでいます。

■ 全社

Q16. 本州化学への TOB を発表したがその目的と今後のシナジーについて説明して欲しい。

A16. 当社が成長戦略に位置付ける ICT 領域への成長加速、及び基盤素材のダウンフロー強化戦略による収益性の向上を目的としています。また、両社シナジーによる新製品、新事業の創出を図っていきます。

Q17. 設備投資額を減額した理由について説明して欲しい。

A17. 一部工期等の遅れ等を織込み設備投資計画を見直しました。

以 上